

世界の非常識—女子学生は5人に1人だけ

2019年12月のニューヨークタイムスに、「日本の最高峰の大学 女子学生は5人に1人だけ (At Japan's Most Elite University, Just 1 in 5 Students Is a Woman)」と題するモトコ・リッチ氏による署名記事が掲載された¹⁾。これは東京大学において、女子学生の比率が2割に過ぎないことについて、そして女子学生が持つジェンダーにまつわる違和感について、インタビューを基に批判的に論じたものである。筆者が学部生であった30年前に東大の女子学生は1割程度だったので、この20年間2割ほどで推移していることは一定の変化があったといえるが、男女の不均衡は明らかで、ハーバードやスタンフォードや北京大学やシンガポール国立大学の男女比率がほぼ半々であることを鑑みると異常にさえ見える。

この記事では、何人かの東大女子学生の経験が実名で語られている。ある女子学生は、東大合格が決まるとすぐに、友人たちから「結婚できないかも」と忠告されたという。この友人たちによると、一般に男性は東大卒の女性を恐れるというのだ。また、在米コラムニストの冷泉彰彦氏は、このニューヨークタイムスの記事に対して、「優秀な女性から東大が嫌われている」というコメントを寄せている²⁾。その理由は様々だというが、「東大の男子学生は、東大の女子学生と結婚したがる」という、「昔から言われていること」が一つの理由だという。

このようなことから、東大に女子学生が少ないのは「東大卒女性は結婚できない」という噂が世間に出回り、「結婚できなくなるから女子高校生は東大受験を敬遠している」という見方が流通し、それが原因で東大に女子学生が少ないという定説が作られていることが伺える。

「東大卒女性は結婚できない」というイメージ

この「東大卒女性は結婚できない」というイメージは、「女性はかわいくあるべき」「高学歴女性は女らしさに欠ける」という社会規範や潜在的価値観を反映している。

例えば、2019年4月に行われた東大の入学式で名誉教授の上野千鶴子氏が祝辞を述べたが、その内容は、東大における女性差別を批判しつつ、新入学をする女子学生に対して差別への覚悟を促すものだった³⁾。そこでは女子学生を不当に不合格にしていた東京医科大不正入試問題にも触れられ、女性が学問を志すにあたっての困難が述べられた。それは、男性の価値と成績のよさは一致しているのに、女性の価値と成績の良さとの間にはねじれがある

というものだ。すなわち女性の場合に成績がいいことは「かわいくない」と思われ、「勉強だけでできて、他のことは劣っている」という全体的な評価になってしまう。この価値観はアメリカにも共通しており、元 Facebook 幹部のシェリル・サンドバーグ氏は TED トークで、男性においては社会的成功と好感度が一致するのに対して、女性で社会的成功を収めている場合は好感度が低くなるという調査を紹介していた⁴⁾。

また、「男らしさ」「女らしさ」についての意識を数値で示す方法を開発した九州大の室賀貴穂氏は、「結婚相手探しに苦労するため、女性は東大へ進学すべきでない」という質問項目を立てたアンケート調査を実施し、肯定する回答者が少なくなかったことを発表した⁵⁾。このような質問項目が立てられることこそ、東大卒女性に対する特異な社会的認識を体現していると捉えられるが、予想どおりに結婚したいなら東大に進学するべきではないという回答が多かったことは興味深い。

東大卒女性は、本当に結婚相手探しに苦労するのだろうか？「東大卒女性は結婚できない」というイメージは正しいのであろうか？

東大卒女性の結婚の実態

東大卒女性の同窓会である「さつき会」は、2021年に設立60周年に合わせて東大卒女性の実態についてのインターネット調査を行った⁶⁾。調査対象者は「さつき会」会員を含む任意の東京大学在学中・卒業女性で、有効回答者数は389名であった。この調査は、東大卒女性のキャリアや生活などについて包括的に聞いたものであるが、結婚についても質問している。その結果、東大卒女性が結婚できないというのは、信憑性に欠けることが明らかになった。実に8割の東大卒女性が、結婚経験がある（事実婚や離別や死別含む）と答えているのである（図1）。

これを2015（平成27）年に行われた内閣府の「結婚・家族形成に関する意識調査報告書」と比べてみよう⁷⁾。年代によって既婚率が多少異なっていたため、出生年齢を揃えて比較してみると、内閣府の調査で1976年から1995年生まれの女性では、既婚（事実婚含む）は54.0%、離別・死別4.5%を合わせると58.5%で、未婚は41.5%であった（図2）。一方で、東大卒女性の同年齢（1988年から2017年卒業の1976年から1995年生まれの含まれる、1986年から2021年卒業の1964年から1999年生まれのデータを利用）では、既婚（事実婚含む）は69.8%、死別と離婚を合わせると78.0%となった（図3）。すなわち、日本女性の既婚率が6割近くなのに比べ、東大卒女性は8割近くが既婚であり、東大卒女性こそ高い割合で結婚しているのである。「東大卒女性が結婚できない」ということが単なるイメージにすぎないことを、この数字は鮮やかに証明している。

なぜ東大卒女性の既婚率が高いのか

それではなぜ、東大卒女性の既婚率は高いのか。これに対する答えは詳細な調査を待たなくてはならないが、仮説を紹介する。

内閣府や国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、専業主婦から仕事と家庭の両立へと、男性がパートナーに望むライフコースの変化が見られる。「子どもができてもずっと職業を続ける」という女性像は、1972（昭和47）年には1割程度の男性にしか支持されなかったが、2002（平成14）年には4割近くからの支持を得るようになった（図4）。また1987年に20歳代の若年男性（現在の50代から60代の男性）は、3人に1人以上が女性に専業主婦になることを期待していた（図5）。しかしその10年後、1997年における若年男性（現在の40代から50代）になると、女性に専業主婦を期待するのは5人に1人程度に激減している。その一方で、仕事と家庭の「両立」を女性に期待する男性は5人に1人程度まで増加した。直近の2015年調査では、女性に専業主婦を期待している若年男性はわずか10.1%、10人に1人まで減少している。その一方、「両立」を期待する男性の割合は増加し、3人に1人以上がパートナーに「両立」を期待している。

もちろん、専業主婦も「シャドーワーク」と言われる重要な仕事をしていることに変わりはないが、東大卒女性のほとんどが主婦以外で何らかの形で職業についている（図6）。休職中を含めて仕事をしている割合は91.2%で、専業主婦4.1%と無職2.4%は合わせて6.5%である。これは、現代の男性が求めている家庭と仕事の「両立」が可能な状況に東大卒女性があるといえる。ゆえに結婚や子育ての間も仕事を続ける東大卒女性は、男性が求める女性像と重なるのだ。

ちなみに東大卒女性の結婚相手として、東大卒男性が6割以上と多いことも、この「さつき会」の調査で明らかになった（図7）。もし東大卒男性と結婚したい人がいるとするなら（そんな人はそう多くないと思うが）、東大に来るのが近道といえるだろう。「結婚したいなら東大は有利、東大卒男性との結婚を望むなら更に東大はお勧め」といえるかもしれない。もちろん、こんなことを考えて東大を目指す女子高校生はいないだろうが。

東大は女性を応援している

世界経済フォーラムによる2022年度版「ジェンダー・ギャップ指数」の国別順位で、日本は146か国中116位だった⁸⁾。2021年度は120位、2020年度は121位だから少しずつ順位を上げているなどと楽観していることはできない。この国のジェンダー・ギャップは深刻な問題であることを多くの人々が認識する必要がある。

東大がジェンダー・ギャップの大きさに危機感を持っていることは、2002年に男女共同参画推進委員会を設置したことからうかがえる。2021年に東京大学第31代総長に就任した藤井輝夫氏は、「ダイバーシティを重視するのは当然のことです」とインタビューで答え、理事の半数を女性にした⁹⁾。そしてその理由を、「ともに仕事をしたいと思った皆さんにお願いした」結果だったと語っている。さらに藤井氏は、ダイバーシティとインクル

ージョンは「知の創出だけでなく人材育成においても基本」であり、「男女共同参画の実現は東京大学における最も重要な課題の一つ」といつている。理事・副学長となった林香里教授も、「ダイバーシティ&インクルージョンは、東大のみならず、日本社会の大きな課題」といつ。男女共同参画室長の吉江尚子氏は、「東京大学にはおおぜいの輝く女性がいます。一方で、その輝きの裏に、ワークライフバランスや社会通念に由来する多くの悩みや苦勞があることも事実です」と指摘し、改善を推進しようとしていつ。

このように東大は大学として女性の活躍を応援していつ。さらに、「さつき会」では2012年から卒業生の寄付を原資とした返還義務のない給付型の奨学金制度を始めていつ¹⁰⁾。そこには経済的な理由で東大進学を躊躇する女子学生への「東大で学ぶ夢を諦めないでほしい」、「東大で学びグローバルな人材として羽ばたいてほしい」といつ同窓生の思いつが詰まていつ。

おわりにかえて—自由に楽しく自分らしく

「東大卒女性は結婚できない」といつ誤ったイメージが流通する状況においても、東大卒女性のリアルな生き方を知れば、世間のイメージに反してそれぞれが個性的な生き方をしていつことに気づく。2022年3月に刊行された、主に東大卒女性へのインタビューを基にした本を書いた秋山千佳氏は、取材の中で東大卒女性に対して「起伏に富んだ、色とりどりの物語」を生きていつ印象を受けたといつ¹¹⁾。筆者の周りの東大卒女性を見回しても、職業も多様、住んでいつ場所も国内外の様々、家族のカタチもいろいろと十人十色であり、その通りだと思いつ。

さらに言えば、東大卒女性に限らず、誰もがそれぞれ個性的で尊重される人生を送ていつのだ。筆者自身も社会学を学問背景として、医療者からではなく患者や障がいのある当事者から見た病気や健康についてのフィールドワーク研究をする過程で、それぞれの人に個性的で鮮やかで深い人生の経験がある事を改めて教えて頂ていつ¹²⁾。これは、「病人」や「障がい者」といつステレオタイプが、偏見やスティグマに満ちたものであること�の証左である。

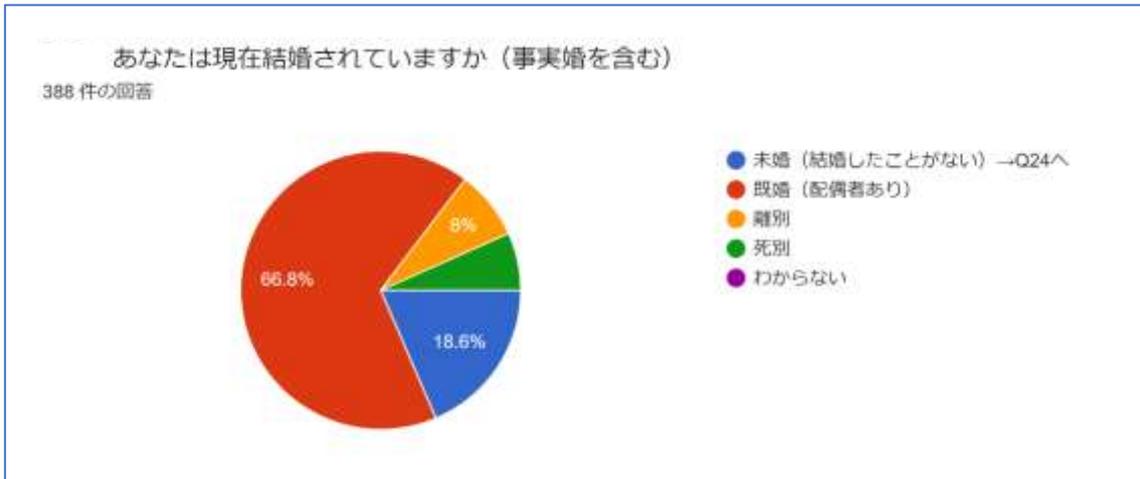
東大卒女性に対しても同様、「結婚できない」「まじめでつまらない」といつた社会的偏見が根深くある。そのような中で、東大卒女性はジレンマを感じたり諦めたりしながら生き方を模索し、自分らしくあることに納得のいく人生を歩んでいつこうとしていつのではないか。東大に限らずすべての日本の女性たちに、世間一般のイメージに惑わされないで、自由に楽しく自分らしく生きていつてほしいと思いつ。

謝辞：さつき会設立60周年アンケートの実施に尽力された「さつき会」の金澤氏、筑本氏、竹内氏に感謝いたします。そして、挫折や憤りと共に喜びや成功の経験をシェアして下さった東大卒女性の皆様に心から御礼申し上げます。皆様方の足跡が、未だジェンダー・ギャ

ップの大きなこの社会で生きていく際の灯火になることを確信しています。

【註】

- 1) Rich, Tomoko, Dec. 8, 2019、日本の最高峰の大学 女子学生は5人に1人だけ
<https://www.nytimes.com/ja/2019/12/08/world/asia/tokyo-university-women-japan.html>
- 2) 冷泉彰彦、アメリカの視点×日本の視点、「ライトハウス・ロサンゼルス版 2020年1月1日」号掲載のウェブ版 <https://www.us-lighthouse.com/life/point-of-view-america-japan/tokyo-university.html>
- 3) 上野千鶴子、2019、平成31年度東京大学学部入学式 祝辞
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/president/b_message31_03.html
- 4) シェリル・サンドバーグ：2010、何故女性のリーダーは少ないのか
https://www.ted.com/talks/sheryl_sandberg_why_we_have_too_few_women_leaders?language=ja
- 5) 女性の東大進学はだめ？「男らしさ」「女らしさ」意識を質問で数値化、2021年11月22日、朝日新聞
https://digital.asahi.com/articles/ASPCN7SJ8PCMTIPE00R.html?iref=comtop_ThemeLeftS_03&fbclid=IwAR3NtxjSzvWhPZxn7FU2A-phuIXVZ-3zt0B3QhgH_FeWiKClQgIS8NYmt1w
- 6) 東京大学女子卒業生同窓会さつき会「第2回 東大卒女性の生活と意識に関する実態調査」、実施期間：2021年5月～2021年8月
- 7) 内閣府 平成27年3月 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）「結婚・家族形成に関する意識調査報告書」
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/h26/zentai-pdf/pdf/print.pdf>
- 8) 世界経済会議、2022、Global Gender Gap Report 2022
<https://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2022/>
- 9) 東京大学ホームページ、第31代総長は「対話」を重視する～藤井輝夫総長インタビュー
https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z1304_00183.html
- 10) <https://www.u-tokyo.ac.jp/kyodo-sankaku/ja/index.html>
- 11) 秋山千佳、2022、東大女子という生き方、文春新書
- 12) 細田満和子、2006、脳卒中を生きる意味—病と障がいの社会学、青海社



(図1) さつき会調査。東大卒女性における既婚者の割合。既婚と離死別を合わせると 81.5%。

結婚状況（事実婚含む）

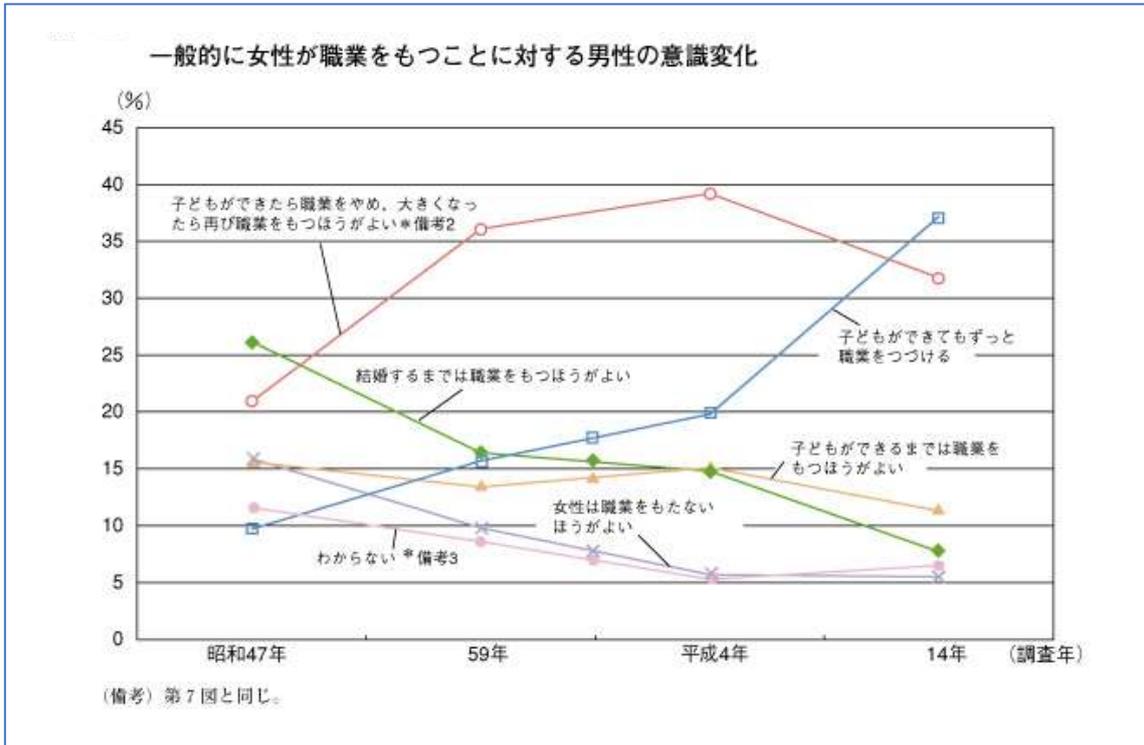
	N	現在配偶者がいる	離婚・死別など	未婚
全体	2,643	50.9	3.1	46.0
男性	1,125	46.8	1.2	52.0
女性	1,518	54.0	4.5	41.5

(%)

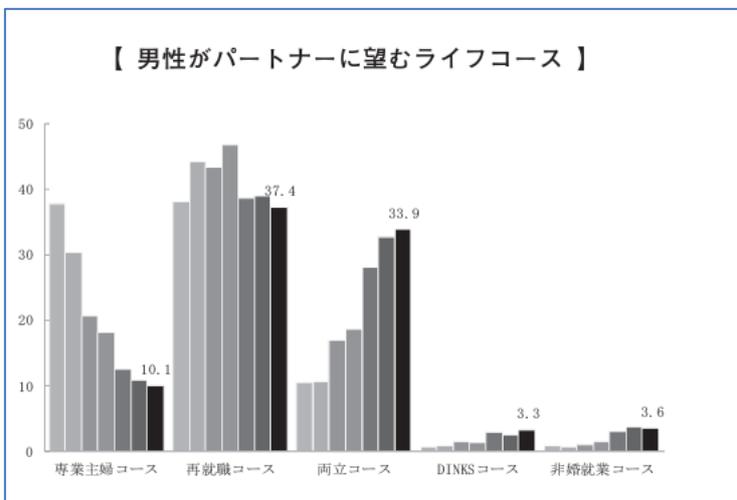
(図2) 全国の 20 歳～39 歳（平成 26（2014）年において=1976 年から 1995 年生まれ）の既婚者の割合（平成 27 年 3 月 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）「結婚・家族形成に関する意識調査報告書」P.20）



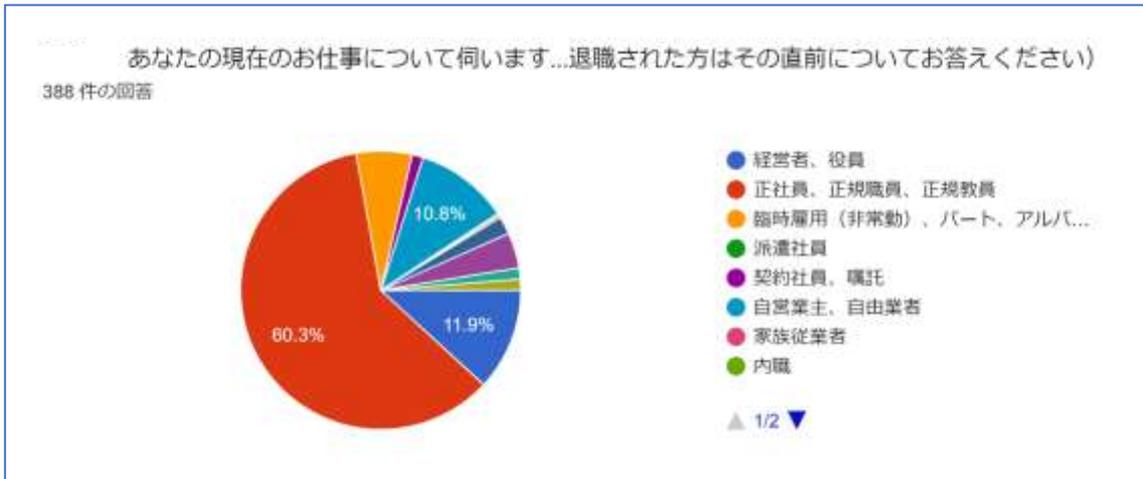
(図3) さつき会調査。東大卒女性の年齢別の既婚者の割合。1986 年から 2021 年卒業では、既婚（事実婚含む）は 69.8%、死別と離婚を合わせると 78.0%。



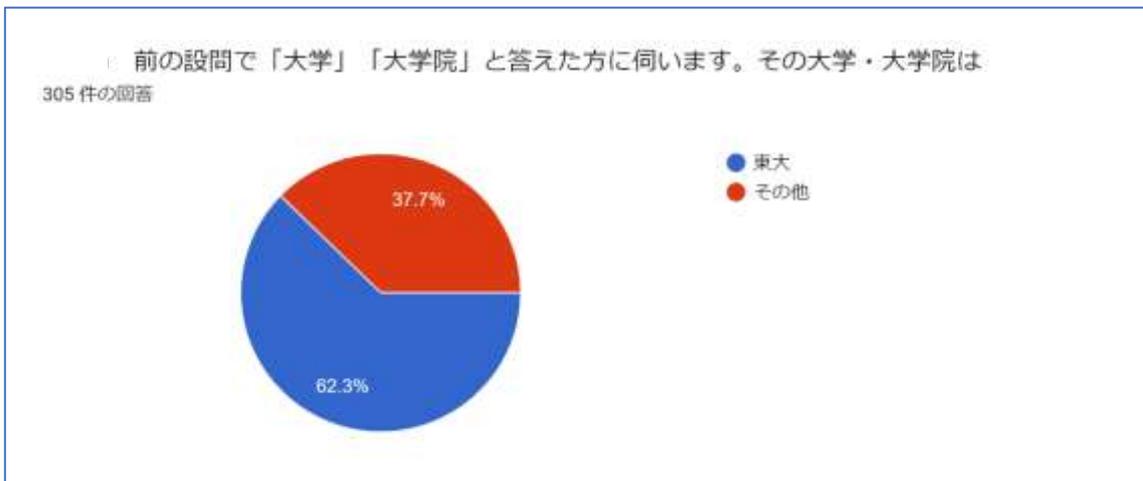
(図4) 内閣府 平成16年版男女共同参画白書 第3節 男女の意識とライフステージ
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h16/gaiyou/html/honpen/chap01_00_03.html



(図5) 国立社会保障・人口問題研究所は、平成27(2015)年に実施した「第15回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)」の結果報告書(確定値)29頁。
https://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp



(図 6) さつき会調査。東大卒女性の働き方。91.2%が仕事をしている。



(図 7) さつき会調査。東大卒女性の結婚相手。62.3 パーセントが東大卒。